

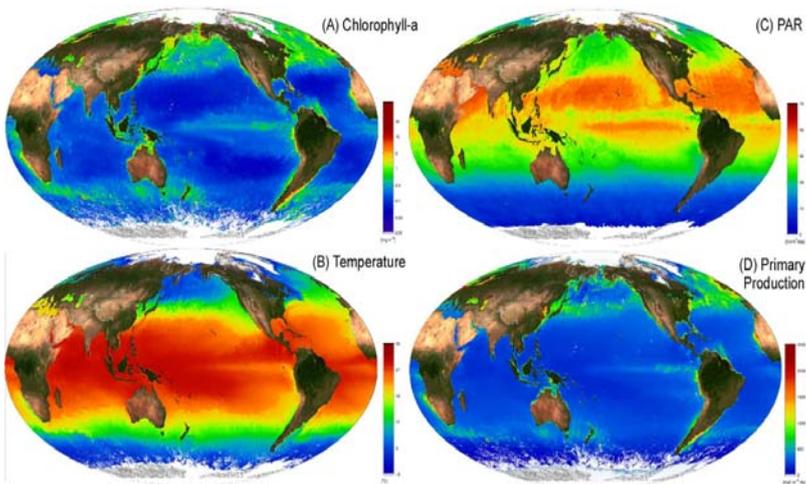
# 衛星生物海洋学研究室



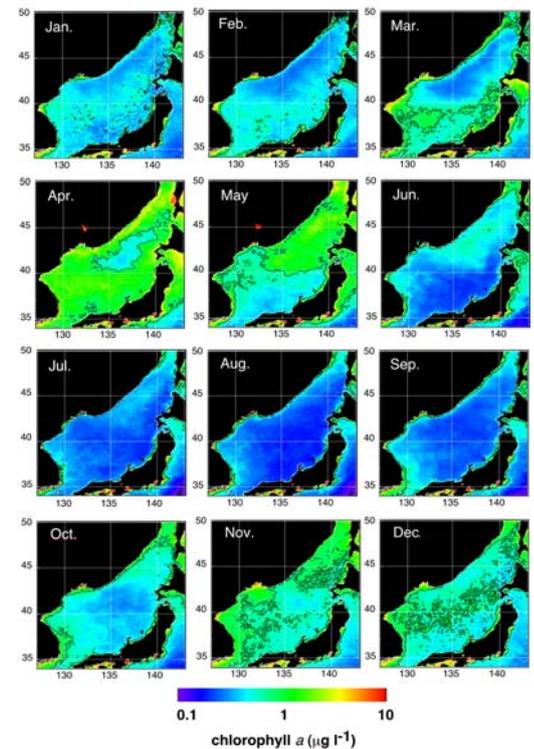
石坂丞二(教授・Ph.D): 生物海洋学  
[jishizak@hyarc.nagoya-u.ac.jp](mailto:jishizak@hyarc.nagoya-u.ac.jp) (地球水循環研究センター3F)  
三野義尚(助教・博士(理学)): 化学海洋学  
[kuro@hyarc.nagoya-u.ac.jp](mailto:kuro@hyarc.nagoya-u.ac.jp) (地球水循環研究センター 3F)

海洋は地球上の水の97%を蓄える巨大な貯水池で、水循環を通して大気や陸域と活発に物質やエネルギーのやり取りをしています。特に沿岸域は陸上からの淡水供給の影響を強く受け、また人間の生活とも密接に関わっています。本研究室では沿岸域の基礎生産(光合成)に関して、衛星リモートセンシングや船舶による海洋観測、過去のデータ解析などの手法を使って研究しています。海洋の基礎生産は顕微鏡サイズの植物プランクトンによって営まれており、魚類等の餌として海洋生態系におけるエネルギー源となり、さらに二酸化炭素をはじめとした物質の移動を担っています。また、増えすぎると赤潮等の環境問題を引き起こしたりもします。

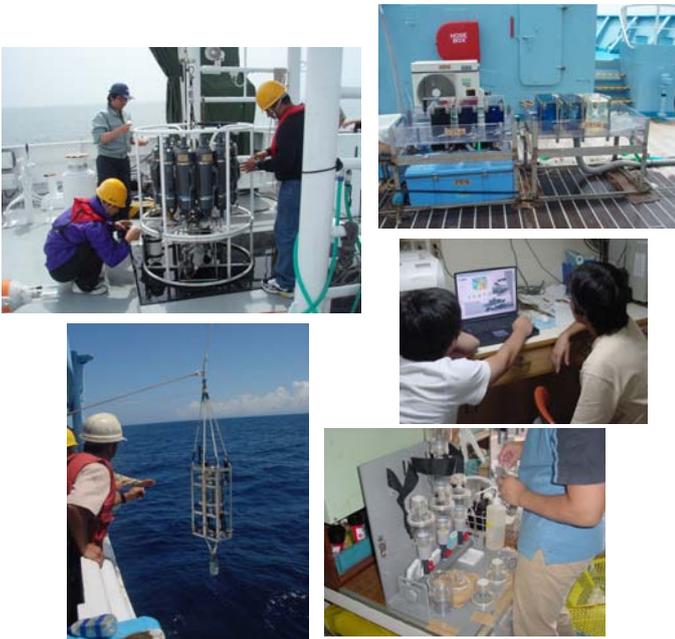
地球規模の(A)植物プランクトン、(B)表面水温、(C)日射量、(D)一次生産(宇宙航空研究開発機構との共同研究)



日本海での植物プランクトン濃度の季節変動、春と秋に増加する



船舶を利用した海洋観測



伊勢湾の植物プランクトンと濁りの分布、下はその顕微鏡写真

